

校長式辞

厳しい寒さが続いた冬も、もうすぐ終わりを告げようとしています。ここ甲山にも春の息吹を感じられる今日このよき日、PTA会長杉本和子様をはじめ多くのご来賓の皆様、並びに多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに兵庫県立西宮甲山高等学校 第三十三回卒業証書授与式を挙げていくことは、誠に大きな喜びであります。高いところからではありますが御礼申し上げます。

そして、これまで、長きにわたって慈しみ育てられました保護者の皆様、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。立派に成長されたお子様の姿に、感激もひとしおかと拝察いたします。

ただ今、卒業証書を授与いたしました第三十三回生 百九四名の皆さん、卒業おめでとうございます。

私は、三十三回生の皆さんとは、一年間の付き合いでしたが、定期戦、甲フェス、体育大会などでの皆さんの奮闘ぶりから、たくさんの感動をいただきました。今、皆さんの脳裏には、甲高での三年間の生活が走馬燈のようによみがえっていることでしょうか。友達と、先生と過ごした学校生活、行事、部活動、家庭のこと、進路のこと、など、楽しいこともたくさんあったと思いますが、いろいろと思い悩んだことも多かったのではないかと、思います。それらを克服し、見事、本日ここに卒業の日を迎えることができました。本当によく頑張りました。ただ、この日を迎えることができたのは、家族、友人、先生方その他多くの人々の暖かい励ましや、支えがあったことへの感謝を忘れてはなりません。

さて、皆さんがこれから漕ぎ出す社会は、どのような社会でしょうか。高度情報化、グローバル化は今後もとてつもないスピードで進むでしょう。また、高齢化が進み、とうとう人口減少時代の到来になります。少し前になりますが、「今の小学校1年生の65%は、大学卒業時に今は存在しない仕事に就くだろう」という研究発表がアメリカでなされました。私たちも皆さんも、これまで学んできたこと、これから学ぶことが、生かせるようになるかもしれないのです。そのような時代に私たちはどう生きていけばよいのでしょうか。正解はありませんが、そんな時代でもたくましく生き抜く心構えとして、大切だなと思うことを二つばかりお話をさせていただきます。

ひとつは、この一年間、常に言い続けてきた「昨日までの自分にはできなかったけど、少し頑張ればできるかもしれないくらいの高い目標を持って欲しい」ということです。言い換えれば、自分ができないことに挑戦するということです。できないことには、その困難さやリスク、失敗したときのダメージなどを考えてしまいます。だから、それはできない、自分には無理とあきらめがちです。しかし、できることはかりして、できないことに挑戦しなければ、いつまでたっても、自分の枠を超えられません。山に登るのに、一步登って振り返ると、その一步の分だけ景色が変わるでしょう。十歩も登れば、以前の自分には想像もできなかった景色が眼下に広がるかもしれません。登ろうという意思がなければ永久に景色は変わりません。また、百歩登ったけど、まだ頂上が見えない場合も、もしかしたら百一步目に頂上が見えるかもしれません。高くすぎて上れそうにない壁も、少し遠回りをすれば登れるかもしれません。たとえ、挑戦が失敗に終わったとしても、そこから学び取ることで成長できます。やりたいことも、やらねばならないことも、仕事でも勉強でも、自分の趣味の世界でも、あこがれでも、頑張ったけど失敗してしまったときも、常に挑戦し続ける人であって欲しいと思っています。それは、必ずや豊かな人生を皆さんにもたらしてくれるでしょう。できるかできないかではありません、やるかやらないかです。

もうひとつは、感謝の気持ちを忘れずに、ということです。前述の、厳しく、予測のつかない社会では、いろいろな場面で、人と人が互いに協力、助け合うことが不可欠です。災害発生時のボランティア活動が注

目され、賞賛、感動を呼びますが、その基礎になるのは、普段から周りの人の気持ちを考え、思いやることではないでしょうか。人生はありがたい気づく旅とか、ありがたいに出会う旅などといわれます。散歩中、小さな花が咲いているのを見つけたあなたは、その花を踏まないように避けて歩きました。そんなあなたの気持ちや行動に気がついたならば、花はあなたにありがとうと感謝するでしょう。気がつかなければ感謝しないでしょうし、避けて歩くのは当たり前でしよ、などと花が思っていたら、その花は感謝の心を亡くしてしまっているのかもしれない。皆さんは、花を避けて歩くことができる人になって欲しいですし、それに気がつき、ありがとうと感謝できる花になって欲しいと思います。

以上二つのことは、実は本校校訓の基そのものであります。「己を極め」は、「挑戦し続けること」、「ふれあいのなかに」は、「感謝の気持ちを忘れずに」、ぜひ、この二つを大切に「明日を拓いて」いただければと願います。

さて、三十三回生の皆さんは、本校の教育方針に則り、あるべき甲高生の姿を体現してくれたと私は思っています。これからは、皆さんが歩んだ跡を、しっかりと確かめながら、さらなる改善を加えて、後輩たちが歩いていくこととなります。皆さんが残してくれた成果を、いかにして定着、発展させていくかが、私どもの大きな仕事のひとつであると考えています。ひとつ、「小さな学校にしかできない教育がある」、ひとつ、「森の中の学校だからできることがある」を合い言葉にこれからも頑張ってもらいます。ぜひ、今後の甲高を楽しみにしていただくとともに、応援をしていただけたらと思っています。

名残は尽きませんが、卒業生の皆さんがたくましく成長され、実り多き人生を歩まれること、さらには皆さんの前途に幸多からんことをお祈りして、式辞といたします。

平成30年 2月28日
兵庫県立西宮甲山高等学校
校長 山村 修平